

製品名: SOCS-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18089**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	SOCS1
別名	SOCS1; SSI1; TIP3; Suppressor of cytokine signaling 1; SOCS-1; JAK-binding protein; JAB; STAT-induced STAT inhibitor 1; SSI-1; Tec-interacting protein 3; TIP-3
遺伝子 ID	8651.0
SwissProt ID	O15524
免疫原	抗血清はヒト SOCS-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 49-98

背景

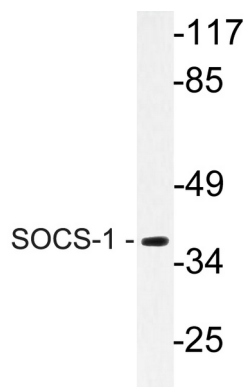
この遺伝子は、STAT 誘導性 STAT 阻害因子 (SSI) ファミリーのメンバーをコードします。これはサイトカインシグナル伝達抑制因子

(SOCS) としても知られています。SSI ファミリーのメンバーは、サイトカイン誘導性のサイトカインシグナル伝達の負の調節因子です。この遺伝子の発現は、IL2、IL3 エリスロポエチン (EPO)、CSF2/GM-CSF、インターフェロン (IFN) γ など、サイトカインのサブセットによって誘導されます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、サイトカイン受容体の下流で機能し、サイトカインシグナル伝達を減弱させる負のフィードバックループに関与しています。マウスのノックアウト研究では、この遺伝子が IFN- γ の作用の調節因子としての役割を示唆しており、これは正常な出生後の成長と生存に必要です。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン: ESS ドメインと SH2 ドメインは、JAK リン酸化チロシン結合に必要です。シグナルおよびキナーゼ阻害には、KIR ドメインとのさらなる相互作用が必要である。ドメイン: SOCS ボックスドメインは、さまざまな E3 ユビキチンリガーゼ複合体のアダプターモジュールである Elongin BC 複合体との相互作用を媒介する。Elongin BC 複合体結合ドメインは、コンセンサス[APST]-L-x(3)-C-x(3)-[AILV]を持つ BC ボックスとしても知られ、SOCS ボックスの一部である。機能: SOCS ファミリータンパク質は、サイトカインシグナル伝達を制御する古典的な負のフィードバックシステムの一部を形成する。SOCS1 は、JAK/STAT3 経路を介してシグナルを伝達するサイトカインの負の制御に関与する。JAK に結合して、そのキナーゼ活性を阻害する。in vitro では、Tec タンパク質チロシン活性も抑制する。インターロイキン 6 (IL6) および白血病阻害因子 (LIF) によるシグナル伝達の主要な制御因子であると思われる。インターフェロン γ を介した感覚ニューロンの生存を制御する (類似性による)。ECS (Elongin BC-CUL2/5-SOCS-box protein) E3 ユビキチンリガーゼ複合体の基質認識成分と考えられるもので、標的タンパク質のユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を媒介します。JAK2 を認識すると考えられます。誘導: インターフェロン、インターロイキン、コロニー刺激因子ファミリーに属するサイトカインを含む、一部のサイトカインによって誘導されます。経路: タンパク質修飾、タンパク質ユビキチン化。類似性: 1 つの SH2 ドメインを含みます。類似性: 1 つの SOCS ボックスドメインを含みます。サブユニット: JAK ファミリーキナーゼ、TEC、KIT、GRB2、VAV を含む、チロシンキナーゼシグナル伝達経路の複数の活性化シグナル伝達タンパク質と相互作用します。JAK への結合は、JAK JH1 ドメイン内のリン酸化チロシン残基への KIR ドメインと SH2 ドメインを介して媒介されます。GRB2 の N 末端のジプロリン決定基を介して SH3 ドメインに結合し、VAV の N 末端調節ドメインにも結合する (類似性による)。Elongin BC 複合体 (TCEB1 および TCEB2) と相互作用する。Elongin BC、CUL5、RBX1、および SOCS1 を含む ECS CBC(SOCS1) E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ複合体の構成要素である (類似性による)。TRIM8 と相互作用する (類似性による)。CUL2 と相互作用する。組織特異性: 全ての組織で発現し、脾臓、小腸、末梢血白血球で高発現する。

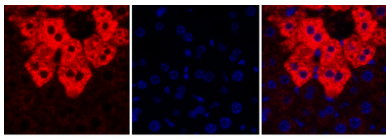
研究分野

ユビキチン媒介タンパク質分解;Jak_STAT;インスリン受容体;2 型糖尿病;

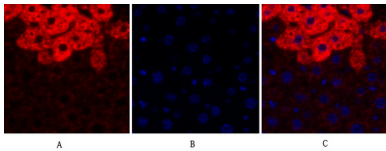
画像データ



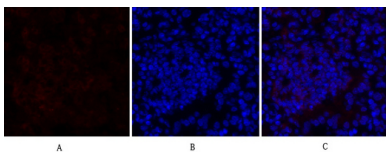
SOCS-1 抗体を使用した、Jurkat 細胞の溶解液のウエスタン プロット分析。



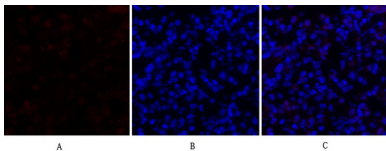
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, SOCS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



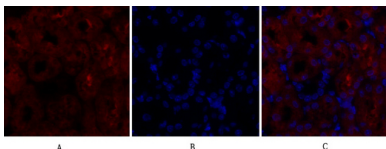
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, SOCS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



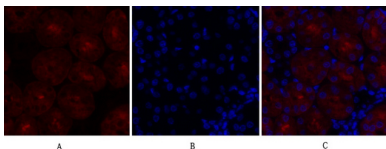
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, SOCS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



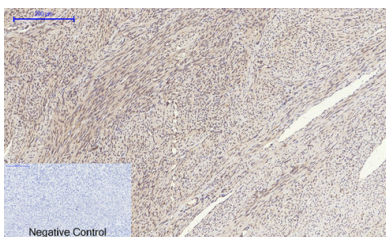
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, SOCS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



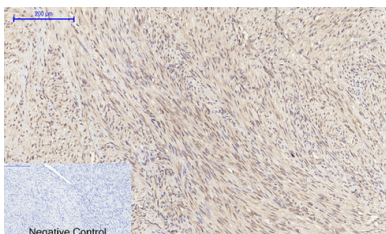
マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, SOCS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, SOCS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. SOCS-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. SOCS-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。